

山 教 社 第 1 5 0 号

平成 2 7 年 1 月 2 9 日

山口市社会教育委員会議

議長 原 田 洋 子 様

山口市教育委員会

教育長 岩 城 精 二

協働のまちづくりを推進するためのライフステージに応じた人材育成
の方策について（諮問）

市民主体の協働のまちづくりを推進するために、その担い手となる人材の発掘及び
育成が急務となっている中、今後、社会教育行政として取り組むべき人材育成の方策
を明らかにするため、下記に掲げる事項について理由を添えて諮問します。

記

1 将来のまちづくりを見据えた青少年教育の在り方について (理由)

青少年期は、生活基盤が主として自分が居住する地域にありながら、その人間関係は学校を中心としたものに限定されていることが多く、地域に目が向きにくい時期でもあります。

しかし、積極的に地域活動に参加することは、青少年自身の発達や、地域の活性化にとってもきわめて有意義なことであるとともに、次代を担う青少年への教育力を高めることが、将来の地域づくりにつながるものと考えられます。

このため、発達段階を踏まえた地域活動や奉仕活動への関わり方や、学校・家庭・地域が連携した取組の推進など、将来のまちづくりを見据えた青少年教育の在り方について検討する必要があります。

2 青壮年の力を活用するための環境づくりと新たな人材の育成について

(理由)

多くの地域では、まちづくりに関わる人材の固定化や高齢化、それに伴う一部の市民への負担増、後継者の育成等が大きな課題となっています。また、複雑化・高度化する現代社会の課題に対応するためには、多様な能力・専門的知識を有する現役世代の人材活用が必要になります。

青壮年層は、職業人として最も活躍する世代であり、業務などを通じて地域で求められている知識や技能を数多くもっているものの、社会教育活動や地域活動に参加する時間的余裕を見出しにくいという現状があります。

このため、青壮年の力を活用するための環境づくりや新たな人材育成の方策について検討する必要があります。

3 高齢者教育の在り方と次世代への継承について

(理由)

わが国では平成16年をピークに人口減少社会に転じ、今後65歳以上の高齢者の人口割合がさらに上昇し、15歳未満の子どもの人口割合が減少していくと予想されています。本市においても例外ではなく、人口の減少と高齢者の割合の増加が予想されています。

高齢者の多くは、地域活動に参加する時間的ゆとりもあり、それまで培ってきた豊かな知識や技能を有しています。また、豊富な人生経験や人脈は、協働のまちづくりを推進するための大きな原動力となることが期待されるとともに、高齢者が生き生きと生活している姿は次世代の見本となり、明るい長寿社会の形成につながると考えられます。

一方で、高齢者のもつ力を継続的に活用していくためには、健康や福祉等に関する高齢者自身の学習機会の創出が不可欠です。

このため、高齢者自身の学習環境の整備と、彼らのもつ豊かな知識や技能を次世代に継承していくための方策について検討する必要があります。